

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.5 1

(令和5年4月発行)

## ある朝気づいたこと

気分の良い目覚めを迎えた朝だった。自転車の空気が甘くなっていたのが気になっていて、朝一番で空気を入れた。この何気ない朝のひとコマが、自分の中に起きている変化を気づかせてくれた。3年前の自分を振り返ってみる。タイヤの状態など気にもせずに乗出し、いやに疲れると思ったら空気が甘くなっていたことに気づく。すぐに空気を入れるかと思えば・・・さにあらず。次回乗出す直前まで放っておいていた。それが次第に乗る前にタイヤをチェックするようになり、空気もすぐさま入れる自分に変わっていった。そして今は、乗らない間にも確かめるようにまでなった。次回乗出しのために、入れるまでとなった。些細なことかも知れない。でも、私の中でのステップアップ。成長した自分を褒めてあげよう。歳を重ねるということは、決して失うことばかりではない。代わりに得るものが必ずあることにも気づきたい。経験値を上げることはまだまだ続けて行けるのだ。

何かを始める時はいつだろう？ 年の始め 思ったら吉日 それとも4月？  
今月号は、それぞれのタイミングでスタートし、元気に活動されている方々です。



① 菊地さん



② 根本さんのバラ園



③ 佐藤さんの川柳

新米の出来へ  
新種の香りを思い

① 人とのふれあいを映画で

② 今年も5月に開園します バラの魔術師

③ 川柳は私の生きがい

菊地 孝夫さん

根本 健さん

佐藤 隆久さん

～編集部から一言～ 皆さんに、ご報告とお願い

今年度より、高山特派員と駒田特派員の2名が新たにシニア特派員として加入しました。  
今までと同様、取材の際はご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）  
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口  
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575  
ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

## ① 人とのふれあいを映画で

菊地 孝夫さん

取材：猶原特派員



今回は、16ミリ映画の映写ボランティアで活動されている菊地孝夫（きくちたかお）さんをご紹介します。菊地さんと映画との出会いは、小学生の頃に親戚に映画好きな方がいらして、よく映画館に連れて行っていただいたのが始まりです。その後、たびたび映画を見る機会があり映画好きになり、多いときは月2、3回映画館に通ったそうです。

50代半ばになり地域に貢献したいと考え、平成18年に宇都宮市主催の映写ボランティアの講座を受講し資格をとりました。16名受講し1番の成績で合格し、直ちに「うつのみや映写ボランティアの会」に入会しました。コロナ過で一時中止にはなりましたが、今は参加人数の制限やマスク・消毒等感染対策を十分に行いながら活動しています。

映写用映画フィルムの種類について簡単に説明します。特殊用の70ミリ、劇場用が主に35ミリ、テレビ・教育・自主製作等が16ミリ、家庭用が8ミリ（いずれも単位はmm）と分かれていてフィルムの横幅を言います。画像と音声とコマ送り穴で構成されています。フィルムの材質はフィルムベースと感光乳剤で構成されていて、厚さや硬さも色々です。

「うつのみや映写ボランティアの会」では年間を通して幼稚園、保育園、小学校、公民館福祉施設や図書館等で幼児から一般の方を対象に様々な映画会を開催しています。邦画、洋画やアニメのほか教育用等フィルム又はDVDで要望に沿える内容になっています。

菊地さんは、地元雀宮映画祭に第1回から協力しています。平成21年から文化祭の行事の一環として、令和元年にコロナの為に中止した以外は年1回行っています。16ミリの映写設備を備えている施設もありますが、原則、映写機、映写台、スクリーン、スピーカーは最低限度必要なため持ち込みます。それなりに重さと大きさがありますので、それらの設置作業を含め会場の準備が大変です。

映画もアナログからデジタルの影響は避けられません。映写機が製造中止のため、修理や部品の入手が困難になっています。媒体もフィルムからDVDに代わり、フィルム作品は微増のため手持ち作品を大切に使用しています。また、屋外での納涼映画祭等がありましたが騒音の関係で中止に追い込まれています。さらに、TVの大型化により個人・友人・仲間と楽しむ人が増えてきています。コマ送りのカシャカシャという音を聞きながら、時々画面が歪んだり・飛んだりとなつかしい16ミリの映写会は、将来も残していただきたい文化です。

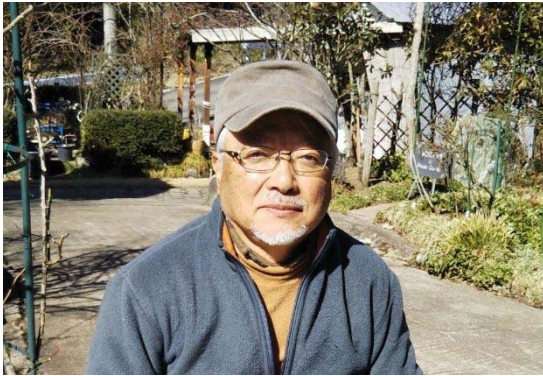
菊地さんは、カメラにも凝っています。約10年前から写真クラブに入り、月1回の学習会、年6回の撮影会、年1回の作品展と経験を積み、技術の向上に努められています。最近では宇都宮市民芸術祭美術展写真部門での入賞や県交通安全協会発行の2023年カレンダーにも掲載されています。

主に、四季折々の風景を撮影されるのがお好きだそうです。これからもますますお元気で活躍されることを期待しています。



県民交通安全写真コンクール優良賞 『登校中』

## ② 今年も5月に開園します バラの魔術師 根本 健さん 取材:肥後特派員



自然豊かな那珂川沿いの農村地帯。この地那須烏山市横枕で生まれ育った、根本健さんです。今年も、自宅のバラ園を開放し、5月中旬過ぎにオープンの予定です。オープンを1ヶ月後に控えて準備、バラの手入れも大方終わりました。今、丹精を込めたバラが芽吹き始めました。これからオープンまでの1ヶ月、根本さんご夫妻にとっては、かわいい我が子のようなバラをわずかな間独り占めできます。今年はバラの時期に合わせて宿根草を40種類植え付けました。バラと共に楽しんでいただきたいという、もう1つの目玉です。

根本さんは、定年退職後の12年前から、奥様と一緒にバラを育てる事に取り組み始めました。退職後のライフプランを考えていた頃、訪ねた知人宅のバラ園に魅せられました。

「これだ!」と感じました。最初は1本のバラの苗木を植えることから始めました。苗を増やしながらか、オープンガーデンとして多くの人に見に来てもらえるまでになりました。

昨年は、残念ながらコロナで1年間休みました。バラは見事に咲きましたが、閉園としました。その年以外の10年間はオープンガーデンを続けています。

現在1,000㎡の敷地に、200種類350本のイングリッシュローズやツルバラを中心としたバラを育てています。根本さんは、ナンバーワンではなく、オンリーワンのバラ園を目指しています。バラ園に多くの人々が訪れ、この横枕地区が変わっていき、活性化していくとともに、別の付加価値を生んでいけるようにしたいと考えています。

6月上旬までの約3週間、バラ園のオープンを目指していくのに、どのくらい手間がかかるかご存じでしょうか。年が明けたら枝の剪定を始めます。剪定が終わると全部の苗ごとに寒肥(元肥)を施します。2月中はこれにかかりきりです。そして、葉が出始めると10日ごとに薬剤散布(殺菌と殺虫のため)を行います。そして準備が終わり、今が開花までのワクワクする時期なのです。秋のバラはどうですかと、聞きました。このあたりは日照時間が少なく、秋のバラの生育には向かないそうです。申し訳ない事を聞いたような気がしました。休む季節があり、何か安堵しました。

この那須烏山市横枕は、山深い田園地帯です。春は桜に囲まれ、初夏にはホタルの里となり、秋は紅葉が見事です。それ以上に特筆したいのは、バラの開花とともに現れる山々の新緑の見事さです。新緑と根本さんのバラの赤、黄、白が見事にマッチしています。これまで数回、根本さんのバラを見にいきました。初めて伺った時の事です。バラ園の周辺を、友人と歩いていました。あぜ道はクローバーでいっぱいです。

「おれはこれまで、四つ葉のクローバーが生えているのを見たことがない」と言いながら足元に目を落としました。「あった。あった」たちどころに10本位見つけました。摘んだクローバーは柄にもなく押し花にしました。根本さんは、今年1月に72歳の誕生日を迎えたばかりです。シルバー大学校中央校に35期生として入学し、在学中は、ギターとウクレレクラブで活躍していました。その交流は今も続き、当時の仲間とボランティアにも活躍されています。1年中、バラに関わる生活もいいと思いますが、好きなギターを弾いたりお酒を飲んだり。そういう生活も楽しんでもらいたいと、心から思います。

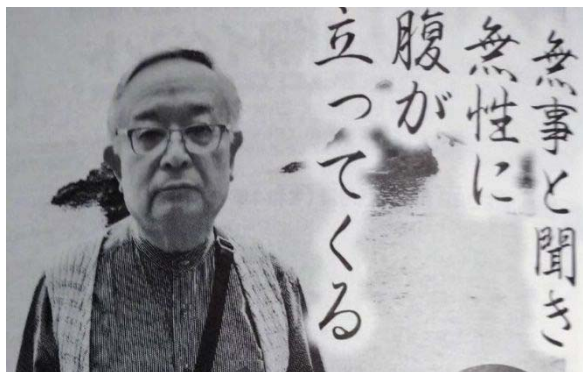


根本さんのバラ園に咲いた様々なバラ

### ③ 川柳は私の生きがい

佐藤 隆久さん

取材：高山特派員



「無事と聞き無性に腹が立ってくる」この句は川柳総合雑誌「月間総合マガジン11月号」の誌上句会で大賞を受賞した句です。

このコロナ禍、県外にお住いの娘さんからなかなか連絡がない。毎日こんなに待っているのに。親の心子知らず、なかなか電話をくれない。でも本当は2人の孫の声を聞きたくて仕方がないのだ。「わかる、わかる」という声が聞こえてきそうです。

この句の作者、佐藤隆久(さとう たかひさ)さんを今回は紹介します。佐藤さんはこのような生活感のある川柳を得意とされています。次の句はどうでしょうか。どんどん披露していきます。思わず「うまい！」と声が聞こえそうです。

「聞き上手決して心は覗かない」 「握る手が瞬時に消したわだかまり」

「見栄張った心の影も背伸びする」 「正論もそこそこにされ多数決」

「大リーグ行くは一流来る二流」 「早々に風読み泳ぐ出世魚」

川柳は俳句と同様に5・7・5の文節で構成される詩になります。俳句との違いは川柳には季語が必要ないという事です。季語が入れば俳句、入らなければ川柳という事になります。川柳は江戸時代の俳人、柄井八右衛門が発案しました。柄井は、俳人でありましたが、形式にとらわれない自由な発想から詠むことが出来る川柳に、魅せられました。

自分でも柄井川柳と名乗り、川柳作家となりました。サラリーマンの悲哀を面白おかしく表現した「サラリーマン川柳」が毎年話題になりますが、我々にもなじんで共感を覚えます。

先程、佐藤さんの素晴らしい川柳を何作か紹介しました。佐藤さんは若草在住。今年75歳になられました。川柳歴は6年、70歳前から始めた川柳です。たった6年で、こんなに上手に世の中の出来事を風刺して、こんなにもうまく詠めるものかと感心することしきりです。佐藤さんと川柳の付き合いは6年前、駒生町のシルバー大学校中央校に入学した時に始まりました。シルバー大学校にはいくつものクラブがあります。佐藤さんは、その中で俳句を極めるため、俳句クラブに入部するつもりでいました。しかし、時間の折り合いがつかず、俳句は断念しました。代わりに川柳を選びました。そしてその



(左端が佐藤さん)

川柳に見事にはまってしまいました。現在、県内の6つの句会に所属しています。そのほかに、下野新聞、毎日新聞にも投稿しています。「広報うつのみや」にも、よく佐藤さんの詠まれた川柳が載っています。「佐藤さんの名前を見たことがある」という方も多いと思います。また、川柳の講師を、宝木本町で月1回開催される句会「茜雲」でされています。最後に、佐藤さんの句で、シルバー世代の悲哀を詠んだ名作を紹介します。川柳が紹介されるいろいろな場所で、佐藤さんの名前と詠んだ句を探してみてください。

「歳波を笑いの皺にかえる知恵」 「瓶の蓋男の力見くびられ」

「忘れ去る早さに学び追いつかず」 「辞書を引く言葉の海に日々多忙」

「ため息の数だけ増える介護皺」